

会 告

昭和 46 年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励金候補の募集をいたします。表彰規程および下記募集要項をご参照のうえ、ふるって推薦または応募されますようお願いいたします。ただし、土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。

◎土木学会賞候補募集要項

| 項目 種別 | 技 術 賞 | 論 文 賞 | 吉 田 賞 | 田 中 賞 |
|---|--|--|---|---|
| 候 補 対 象 | 土木事業の計画、設計または施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなした画期的な業績を対象とし、次の各項について選考する。 1. 土木事業の計画、設計または施工等に関する業績 2. 土木事業の計画、設計、施工等に関する総合的な業績 | (論文賞) 土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩、発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたものの。 (論文奨励賞) 土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので受賞者の年齢が原則として受賞時(47年5月末日)に満36才未満である者。 | コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なった者に授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究報告またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。 | (論文) 橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究成果を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。 (作品) 鋼およびコンクリートなどの橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有する物を対象とする各グループについて、選考する。 ① 長大橋梁 ② 中小橋梁 ③ その他特殊橋梁および橋梁に関連するもの |
| 受 賞 候 補 者 | 個人または団体。 | 本会会員に限る。過去の受賞者は、論文賞、論文奨励賞の種別における同一の賞の候補者になることができない。昭和39年以前の旧制度による土木受賞者は、既受賞者とする。共著者(共同研究者)の中に非会員、既受賞者、その他受賞候補者になることができないが、受賞候補者に加えることはできない。共著者(共同研究者)を受賞候補者からほぐして推薦する場合は、必ず受賞候補者の当該論文(研究)に対する貢献度を具体的に明記すること。 | 個人または研究グループ。ただし、外国国籍の者は、本会会員であって、その候補対象を土木学会の誌、論文報告集、その他土木学会の刊行物に発表した者に限る。また、過去の吉田賞受賞者は重ねて吉田賞候補となることができない。共著者(共同研究者)のうちに既受賞者その他受賞候補者になることができないが、受賞候補者に加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からほぐして推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。 | (論文) 個人またはその複数。ただし、外国国籍を有する者の論文については、日本において最初に発表されたものに限る。また、過去の田中賞受賞者は重ねて田中賞候補となることができない。共著者(共同研究者)のうちに既受賞者その他受賞候補者になることができないが、受賞候補者に加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からほぐして推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。 (作品) 作品自身を対象とするもので受賞候補者はない。 |
| 候 補 の 範 囲 | 昭和45年1月1日から昭和46年12月31日までの間にできた業績であって日本国内において実施されたものに限る。 | 昭和45年1月1日から、昭和46年12月31日までの間に発表されたもので、土木学会誌、論文報告集、その他土木学会の刊行物に登載されたもののほか、他学・協会、大学、官庁、会社などの刊行物に登載されたものを含む。なお、同一の問題につき当該期間以前においても論文が発表されている場合には、前掲に該当する論文とその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。 | | (論文) 論文賞・吉田賞に同じ。 (作品) 昭和45年1月1日から昭和46年12月31日までの間に完成した構造物で、日本人により計画、設計あるいは施工されたものに限る。なお、完成の時期については、原則的には普通の橋梁等では、供用開始のとき、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物では、その自身の完成したと見なされるときとする。 |
| 推 薦 (応募) の 方 法 | 推薦者は、会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人とする。推薦者は、別に定める推薦書、候補業績の要旨各1部を提出する。なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。 | 推薦者は、会員、支部その他一般とするが、会員みずからの応募であってもよい。推薦者は、別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文報告集以外に発表されている場合は、推薦書に添えて本文および審査に必要な資料6部と別に定める様式による候補論文要旨1部を提出しなければならない。 | 推薦者は、会員、その他一般とする。推薦者は、別に定める様式による推薦書1部を提出する。土木学会誌、論文報告集以外に発表された候補論文は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料30部を提出しなければならない。 | (論文) 推薦者は、会員、支部、その他一般とする。推薦者は、別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文報告集以外に発表されている場合は、推薦書に添えて審査に必要な資料25部を提出しなければならない。 (作品) 推薦者は、会員、支部、その他一般として、受賞候補に関与した当事者であってもよい。推薦者は、別に定める推薦調書1部を提出する(写真は25枚添付すること)。 |
| (推薦および関係用紙は土木学会本部または各支部に準備してありますから必ずその用紙を使用して下さい) | | | | |
| 審 査 | 表彰委員会において行なう。ただし、審査の途上において推薦者またはその代理人に出席を求め説明をうけることがある。 | 論文賞選考委員会において行なう。なお、必要あるときはさらに資料30部の追加提出を求めることがある。 | 吉田賞選考委員会において行なう。 | 田中賞選考委員会において行なう。なお、必要あるときは、さらに関係資料の提出を求めることがある。 |
| 表 彰 | 第58回通常総会において行ない、賞牌、賞状、賞金を贈る。 | 第58回通常総会において行ない、賞牌、賞状、賞金を贈る。 | 第58回通常総会において行ない、賞牌、賞状、賞金を贈る。 | 第58回通常総会において表彰する。 |
| 締 切 日 | 昭和47年1月20日 | | | |
| 提 出 先 | 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会表彰委員会 | 土木学会論文賞選考委員会 | 土木学会吉田賞選考委員会 | 土木学会田中賞選考委員会 |

土 木 学 会 表 彰 規 程

(総則)

第1条 土木学会規則第34条による表彰はこの規程による。

(賞の種類)

第2条 表彰は次の土木学会賞(総称)を授与して行なう。

1. 功 績 賞
2. 技 術 賞
3. 論 文 賞
4. 吉 田 賞
5. 田 中 賞

(功績賞)

第3条 功績賞は土木学会の会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められるものに授与する。

(技術賞)

第4条 技術賞は土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

(論文賞)

第5条 論文賞は本会会員であって、土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。

- (2) 論文奨励賞は本会会員であって、土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年齢が原則として受賞時に満36才未満であるものに授与する。

(吉田賞)

第6条 吉田賞はコンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なったと認められるものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計、施工、考案等の報告またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。

(田中賞)

第7条 田中賞は次の論文ならびに作品に授与する。

(1) 論 文

橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究結果を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。

(2) 作 品

橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有すると認められる物を対象とし、長大橋梁、中小橋梁、その他特殊橋梁および橋梁に関連あるもののグループ別選ばれる。

(委員会)

第8条 土木学会賞を選考するため次の委員会をおく。

1. 表 彰 委 員 会
2. 論 文 賞 選 考 委 員 会
3. 吉 田 賞 選 考 委 員 会
4. 田 中 賞 選 考 委 員 会

- (2) 表彰委員会は功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞、吉田賞および田中賞選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行ない、土木学会賞受賞候補を決定する。

- (3) 論文賞選考委員会は論文賞候補の選考を行なう。

- (4) 吉田賞選考委員会は吉田賞候補の選考を行なう。

- (5) 田中賞選考委員会は田中賞候補の選考を行なう。

- (6) 前記各委員会の構成、運営、その他については別に内規で定める。

(賞の決定、表彰の時期・方法)

第9条 土木学会賞は理事会において決定し、表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌、賞状等を授与して行なう。

◎吉田研究奨励金候補の募集

1. 候補対象

コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する研究に従事する者で、特に独創性と将来性に富むと認められたもの。ただし、授与される者が、原則として満40才以下の者に限り、かつ、特殊な場合を除き、同一研究計画に対しすでに吉田研究奨励金を授与されたものを除く。

2. 募集の題目

(1) 要望課題

コンクリートの複合機構に関する研究

(2) 自由課題

3. 募集の方法

日本の国籍を有する個人または研究グループの応募による。

4. 研究成果の報告

研究成果は文書により吉田賞選考委員会に提出するほか、昭和48年10月中旬施行の第28回年次学術講演会において吉田研究奨励金を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。

5. 応募の方法

一定様式による研究計画書1部を提出する。

(計画書の用紙は土木学会本部および各支部に準備してありますから、必ずその用紙を使用して下さい)

6. 審査

吉田賞選考委員会において行なう。

7. 締切期日

昭和47年1月20日

8. 提出先

郵便番号160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会吉田賞選考委員会

◎昨年度の土木学会賞受賞者(敬称略)

功績賞：鮫島 茂 土木工学ならびに土木事業の進展

岡田 信次

技術賞：日本鉄道建設公団 京葉線羽田トンネル多摩川横断部沈埋トンネル工事

阪神高速道路公団 万国博覧会関連の都市高速道路の建設

論文賞：市原 松平 { 平面ひずみ状態と軸対称ひずみ状態における乾燥砂のせん断特性
壁変位中における土圧特性と裏込め砂せん断特性の関連

佐藤 裕 } 道床部に着目した新軌道の研究
樋口 芳朗 }

論文奨励賞：坂井 藤一 薄肉平板より成る立体的構造物の静力学的解析に関する一方法と応用

星谷 勝 確率論的手法にもとづく構造解析に関する一連の研究

吉田賞：山田 順治

寺本 秀男 急速施工を目的とした特殊セメントの開発並びに実用化

塚山 隆一

田中賞：論文部門 該当なし

{ 神戸大大橋

作品部門 { 富士川水管橋

{ 加古川橋梁

第 8 回衛生工学研究討論会論文募集

▶ 1 月 28 日 (金) ~ 29 日 (土) ◀

土木学会衛生工学委員会は、下記の予定で研究討論会を実施しますので、論文提出者をご応募下さいますようご案内いたします。

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1972 年 1 月 28 日 (金), 29 日 (土)
3. 場 所：土木学会土木図書館講堂 (新宿区四谷 1 丁目無番地)
4. 論文内容：本年度は自由題目といたします。
5. 申込方法：10 月 15 日までに講演原稿を土木学会衛生工学委員会までご提出下さい。なお原稿は学会指定のオフセット原稿用紙 (申込み次第送付) をご使用下さい。原稿枚数は 8 枚までとし、期限を厳守下さい。
昨年と同様、討議論文 1~2 編を附して印刷いたします。特定の討議者をご希望の場合は、希望討議者氏名を同封して下さい。
6. 申 込 先：土木学会衛生工学委員会 (新宿区四谷 1 丁目)
7. 採 否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。

昭和 46 年度秋のエクスカーションについて ▶ 11 月 30 日 (火) ~ 12 月 1 日 (水) ◀

土木学会では毎年会員の親睦と工事現場の見学を兼ねて秋にエクスカーションを実施しておりますが、本年度は世界第 9 位の関門橋と世界第 2 位の新関門トンネルならびに阿武川ダムの上三工の見学と山口県内の観光を下記により実施いたしますので会員諸氏のご参加をおすすめします。

1. 期 日：1971 年 11 月 30 日 (火) ~ 12 月 1 日 (水)
2. 集合場所：山陽本線下関駅東口駐車場, 11 月 30 日 13 時まで
3. 見学コース：下関駅→新関門トンネル→(国鉄山陽新幹線)→関門橋 (道路公園)→仙崎鯛養殖場→長門湯本温泉 (泊)→秋芳洞→阿武川ダム建設現場 (山口県)→萩市 (屋敷・観光)→(西海岸廻り)→下関駅
4. 解散場所：山陽本線下関駅, 12 月 1 日 16 時 30 分
5. 定 員：50 名
6. 会 費：6 000 円 (1 泊 3 食、バス代、入場料)
7. 申込方法：参加希望者は 11 月 15 日までに会費を添えて東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会事業課までお申込み下さい。なお、期限前でも定員になり次第締切ります。

第 16 回水理講演会講演募集

▶ 2 月 18 日 (金) ~ 19 日 (土) ◀

第 16 回水理講演会を下記により開催致しますので、講演ご希望の方はふるってご応募下さい。

1. 期 日：1972 年 2 月 18 日 (金) ~ 19 日 (土)
2. 会 場：発明会館 (東京都港区西久保明舟町 17 番地・地下鉄虎ノ門下車徒歩 3 分)
3. 主 催：土木学会水理委員会
4. 課 題：A. 移動床流れの粗度と河床形状
B. 構造物周辺の流れ (局所流) C. 流出解析 (統計を含む)
5. 申込方法、その他：10 月 30 日までに講演題目、講演者氏名 (連名の場合は登壇者に○をつける)、勤務先、連絡先住所を明記のうえ、土木学会水理委員会までお申込み下さい。折り返し当学会所定の原稿用紙をお送り致します。
なお、講演の採否については、水理委員会にご一任下さい。
6. 講演原稿締切期日：1971 年 12 月 11 日 (土) (厳守)

第 7 回岩盤力学に関するシンポジウムを下記により開催いたしますので、講演ご希望の方は、ふるってご応募下さい。

第7回岩盤力学に関するシンポジウム講演募集 ▶ 2月24日(木)~25日(金) ◀

1. 期 日: 1972年2月24日(木)~25日(金)
 2. 会 場: 土木学会土木図書館講堂
 3. 主 催: 土木学会岩盤力学委員会
 4. 講演申込要項:
 - (1) 内 容: 岩盤力学に関する理論, 実験, 測定等(ダム, トンネル, 爆破等への応用例も含む)
 - (2) 講演申込締切期日: 1971年10月30日(土)
 - (3) 申 込 先: 郵便番号160 東京都新宿区四谷1丁目土木学会岩盤力学委員会
 - (4) 申 込 要 領: 講演題目, 講演者氏名(連名の場合は登壇者に○印をつける), 勤務先, 連絡先を明記のうえ, 400字程度の内容梗概を付けてお申込み下さい。
 - (5) 講演原稿締切期日: 1971年12月20日(月)
- 注 1. 講演時間は, 1件討議を含め30分程度です。
 2. 講演の採否, その他については, 岩盤力学委員会にご一任下さい。
 3. 講演概要はオフセット印刷と致しますため, 講演者には学会所定の様式にしたがって, 講演原稿を提出していただきます(1題目刷上和文4ページ(図表, 写真を含み6480字)および英文梗概1ページ以内)。

映画開催について<於土木学会講堂>

▶ 11月13日(土) ◀

1. 場 所: 土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目 国電・地下鉄四ツ谷駅下車)
 2. 日 時: 毎月第2土曜日 14.00~11月は13日(土)です。
 3. 上映映画: 11月は公害関係を予定しております。
 「騒音とその対策」「PPMを追う」その他
 なお, 上映映画は都合により変更することがございますのであらかじめご了承下さい。
 4. 参加費: 無料, 土木関係以外の方も歓迎致します。
 本映画会に関する問合せは 土木学会視聴教育委員会宛にお願い致します。(電 03(351)5130)。
- 共 催: 土木学会関東支部

第6回土木計画学シンポジウム

▶ 1月25日(火)~26日(水) ◀

今回のシンポジウムは, 土木計画学の体系化への一環として, 計画プロセスおよび評価システムの問題を主題とします。前回のシンポジウムにおいては, 具体的な事例を対象として, 土木事業の計画から運用に至るまでのプロセスを討論してきましたが, 今回は, これらの討論結果をふまえて, 現在, 計画者がかかっている実際の諸問題を解明してゆこうとするものです。

具体的な進め方としては

- ① 第5回土木計画学シンポジウムのまとめ
- ② 計画プロセスのパネルディスカッション
- ③ 評価のための分析モデルについての討論

を行ないます。

なお, 今回は2日間にわたり, 討議に十分な時間をかけ, 討議内容をおって発行するプロシーディングに収録致しますので, 各位ふるってご参加願います。 土木計画学研究委員会

1. 期 日: 1972年1月25日(火)~26日(水)
2. 時 間: 9.30~17.00(両日とも・予定)
3. 会 場: 土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目無番地/国電・地下鉄四ツ谷駅隣外濠公園内 電話 03-351-5138 番)
4. 主 題: 土木計画の評価システム・その2
5. 申込方法: 参加希望者は, 官製葉書に, ①氏名, ②所属官職名, ③連絡先郵便番号・住所・所属・電話,

④ 会員区分, ⑥ 連絡事項, を記入のうえ, 1971 年 12 月末日までに下記あて申込んで下さい。おりかえし, 参加票をお届けします。

6. 参加費: 会員 1500 円, 会員外 2000 円

ただし, 前刷代およびおって発行される「第 6 回土木計画学シンポジウム」(プロシーディング)の図書代を含みます。参加費は, 当日「参加票」とあわせ受付にて徴収いたします。

7. 定 員: 100 名 (一般・受付順)

8. 備 考: シンポジウムを要領よく進めるために, 事前に「第 5 回土木計画学シンポジウム」(1971 年 8 月発行) (定価 900 円・送料 100 円/会員特価 800 円・送料 100 円) をおめとおしいたきたい。

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南 1 条西 2 丁目 勸銀ビル 5 階) 電話 011-251-7038 振替小樽 20603)

(1) 気象と土木工事, 地域別講習会

1. 日 時: 1971 年 11 月 20 日 (土)~30 日 (火)

2. 場 所: 旭川市・釧路市・網走市・室蘭市・函館市

以上の地域別開催日時および会場については近日中に支部行事案内でお知らせします。

3. 受講料: テキスト代を含み 会員 1000 円 会員外 1500 円

4. テキスト頒価: 受講者以外に必要とされる場合は, 定価 300 円です。支部事務局へ申込み下さい。

5. 定 員: 各地共 100 名程度

6. 申込期限: 各地共 11 月 10 日まで受講料前納のうえ当支部事務局へ申込み下さい。

7. 講習題目と講師 (地域別):

- | | | | |
|-------|---------------------------|----------------|--------|
| ○旭川市: | ①旭川地域の気象について | 旭川地方気象台技術課長 | 白石 喜一 |
| | ②旭川地域の治水工事について | 旭川開発建設部治水課長 | 江利川 喜一 |
| | ③旭川管内の道路工事について | | (未定) |
| ○釧路市: | ①釧路地方の気象の特性について | 釧路地方気象台防災業務課長 | 荒木 関 方 |
| | ②漁業と河川工事について | 水産庁北海道サケ・マスふ化場 | (未定) |
| | ③治水工事について | 帯広開発建設部治水課長 | 内山 博 |
| ○網走市: | ①網走地方の気象とその特性について | 網走地方気象台技術課長 | 菅原 正信 |
| | ②網走管内の治水工事について | 網走土木現業所治水課長 | 梶川 利弥 |
| | ③漁業と河川工事について | 水産庁北海道サケ・マスふ化場 | (未定) |
| | ④管内の道路と農業——北見地方の農業の将来計画—— | 網走開発建設部長 | 針原 淳一 |
| ○室蘭市: | ①室蘭地方の気象について | 室蘭地方気象台技術課長 | 今野 真悦 |
| | ②室蘭管内の河川工事について | 室蘭土木現業所治水課河川係長 | 加藤 鋭一 |
| | ③室蘭管内の道路計画について | | (未定) |
| ○函館市: | ①函館地方の気象について | 函館海洋気象台予報官 | 佐藤 完 |
| | ②函館管内の河川工事について | 函館土木現業所治水課河川係長 | 竹下 徹 |
| | ③函館管内の気象と道路について | 函館開発建設部道路課長 | 松尾 徹郎 |

(2) 研究発表会

▶ 2 月 25 日 (金) ◀

1. 原稿の内容: 土木工学・土木技術・工事報告文

2. 原稿締切: 1971 年 11 月 20 日 (土) 発表申込みを行なった人は期日までに必ず原稿を提出して下さい。

この期日に遅れたものは, 受理されないのので特に申し添えます。(印刷進行の都合上)

3. 論文集刊行方法: 「論文集第 28 号」として本印刷 (発表期日の 10 日前に有料配布する)。

4. 発表会期日: 1972 年 2 月 25 日 (金)

5. 発表会場: 北海道建設会館 9 階 3 会場

6. 賞 : 応募された論文は, 「支部奨励賞」の選考対象となります。

関東支部行事案内 (郵便番号 160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会内)
電話 03-351-4133

「最近のコンクリートの話題」講習会

▶ 11月25日(木) ◀

土木技術にも次々と新しい手法がとり入れられ、それらに対する早急の理解が求められております。今回は特にコンクリートの新技術についての話題を次の講師の方々に明解に解説して頂くことにしました。この好機に多数のご参加をお待ちしております。

会場は約200名で満員となりますので、早目にお申し込み下さい。

1. 期 日: 1971年11月25日(木) 10.00~17.00
2. 場 所: 土木学会図書館講堂
3. 題目・講師:

| | | |
|-------------|--|---------------------|
| 10.00~10.10 | 開 会 挨拶 | 土木学会関東支部長 水越 達雄 |
| 10.10~11.50 | オートクレーブによる超高強度コンクリートの実用について | 日本コンクリート工業(株) 三浦 一郎 |
| 11.50~12.00 | 質 疑 | |
| (休憩 60分) | | |
| 13.00~14.40 | コンクリートの早期強度を得るための各種の方法について | 日本セメント(株) 研究所 山崎 寛司 |
| 14.40~14.50 | 質 疑 | |
| (休憩 10分) | | |
| 15.00~16.40 | 高速道路構造物における最近の話題 —軽量コンクリートおよび樹脂の利用— | 首都高速道路公団 津野 和男 |
| 16.40~16.50 | 質 疑 | |
| 16.50~17.00 | 閉 会 挨拶 | 土木学会関東支部幹事長 佐藤 友光 |
4. 参加費: 1,000円(テキスト代を含む)
5. 申込み方法: 参加希望者は ①氏名, ②所属部課名, ③連絡先等を明記のうえ、会費を同封し現金書留で下記宛お申し込み下さい。

〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会 関東支部

中部支部行事案内 (郵便番号 460 名古屋市中区三ノ丸三丁目1番2号
愛知県土木部道路建設課内 電 052-961-2111 内 2430)

中部支部研究発表会

▶ 11月12日(金) ◀

共催: 土木学会中部支部, 土質工学会北陸支部

1. 日 時: 1971年11月12日(金)
2. 場 所: 金沢大学教養部教室(旧城内)
3. 聴 講: 無料
4. 申込方法: 聴講希望は11月2日(火)までに勤務先、氏名を明記のうえ土木学会中部支部, 土質工学会北陸支部へお申し込み下さい。

5. 発表題目および発表者:

第I部門(応用力学・構造力学・橋梁工学)3階 C9教室

- | | | |
|--------------------|---|--|
| I-1 (9.30~9.45) | 動的設計のための人工不規則波の作成について(スライド) | 金沢大学 小堀 為雄・〇尾崎 正明 |
| I-2 (9.45~10.00) | 道路橋にかかる時系列的自動車荷重列について | 金沢大学 小堀 為雄・〇梶川 康男・建設省金沢工事事務所 高橋 晴 |
| I-3 (10.00~10.15) | 有限要素法による三次元場の問題 | 名古屋大学 川本 眺万・〇原 一良 |
| I-4 (10.15~10.30) | T字型2次元弾性体の応力解析 | 名工大 岡林 稔・〇長谷部宜男・飯田 善郎 |
| I-5 (10.30~10.45) | たばね鉄筋の付着について | 信州大学 〇松田 正直・長 尚 |
| 休 憩 (10.45~10.50) | | |
| I-6 (10.50~11.05) | プレストレスで接合したプレキャストブロックの曲げ及びせん断特性について(スライド) | 岐阜大学 大浜 文彦・小林 和夫・〇堀田 初夫・PSコンクリート 久野 公徳 |
| I-7 (11.05~11.20) | プレキャストコンクリートを用いた連続合成はりの拘束モーメントに関する一考察(スライド) | 岐阜大学 大浜 文彦・〇小林 和夫 滝上工業 〇高木 録郎・熊沢 周明 |
| I-8 (11.20~11.35) | 曲線I型桁橋の設計上の問題点と対策(スライド) | 信州大学 吉田 俊弥・〇三井 康司 |
| I-9 (11.35~11.50) | 変断面曲りばりの解析(スライド) | |
| I-10 (11.50~12.05) | 斜めスラブアーチの応力解析(スライド) | 岐阜大学 井上 肇・前島 正彦・〇近藤 昇 |

昼 食 休 憩 (12.05~13.00)

- I-11 (13.00~13.15) 曲げと軸圧縮力を受ける変断面柱の強度と変形状について (スライド)
 金沢大学 書内 敏・吉田 博・○岩井 弘
- I-12 (13.15~13.30) 斜張橋の予備設計に関する資料 滝上工業 林 輝雄・和田 匡史・○安藤 浩吉・大沢 正徳
- I-13 (13.30~13.45) トラスの非線形挙動に関する考察 (スライド) 信州大学 吉沢 孝和
- I-14 (13.45~14.00) 日吉川橋の設計について (スライド) 道路公園 宮本 潔・○上野 建昭
- I-15 (14.00~14.15) 名鉄矢作川橋梁の改築 名 鉄 杉山 孝雄・○杉江 道雄
- 休 憩 (14.15~14.20)
- I-16 (14.20~14.35) 松ヶ谷橋の塑性設計について 金沢大学 ○吉田 博・富山県 安原 宗光
- I-17 (14.35~14.50) ロックフィルダムの応力と変形の実験と数値的解析 (スライド) 中 電 朝倉喜実男・丹羽 哲郎・○宮口 友延
 岐阜大学 増田 重臣・○安田 孝志
- I-18 (14.50~15.05) 波力による円筒体の挙動に関する研究

第 II 部門 (材料・施工・水文・水理・港湾) 3階 C5教室

- II-1 (10.00~10.15) 北陸地方の雪質について (スライド) 金沢大学 柳場 重正・○大深 伸尚
- II-2 (10.15~10.30) フィルター材料の工学的一考察 中 電 ○長谷川英明・朝倉喜実男
- II-3 (10.30~10.45) 細砂を使用したコンクリートの長期圧縮および曲げ強度についての一実験 (スライド) 金沢大学 柳場 重正・○森 光明・大深 伸尚
- 休 憩 (10.45~10.50)
- II-4 (10.50~11.05) 振動の影響を受けるコンクリートの強度試験 (スライド) 愛媛県 小林 郁夫・江口 昇三・渡辺 志郎・○古川 正勝
- II-5 (11.05~11.20) 高炉淨路盤の試験施工について 愛知県 小林 郁夫・○伏見 博行
- II-6 (11.20~11.35) アタックティックポリプロピレンをバインダーとしたカラー舗装についての2,3の考察 (スライド) 名城大学 中井 清・高橋 政稔・名古屋市立工芸高 ○松本 正則
- II-7 (11.35~11.50) プラスチック廃棄物を使用した乳剤舗装に関する実験的研究 (スライド) 名城大学 水野 弘・○藤田 晃弘
- II-8 (13.00~13.15) 長良川における雨量、流量時系列の性質について (スライド) 名古屋大学 高木 不折・○山田 啓一
- II-9 (13.15~13.30) 貯水池内の水の流れについて 名古屋大学 西畑 勇夫・○鍵富 淳一
- II-10 (13.30~13.45) 泊地における潮汐の混合作用について 名古屋大学 足立 昭平・○木村 稔・森 章
- II-11 (13.45~14.00) 複合滞水層よりの揚水試験 (スライド) 岐阜大学 宇野 尚雄
- II-12 (14.00~14.15) ギャム基礎の浸透について (スライド) 愛知工大 大根 義男・○木村 勝行
- 休 憩 (14.15~14.20)
- II-13 (14.20~14.35) 不規則波の波速に関する実験的研究 名工大 石田 昭
- II-14 (14.35~14.50) 不連続構造物付近の波高分布 名古屋大学 足立 昭平・○清川 伸孝
- II-15 (14.50~15.05) 砕波以深領域における波の打ち上げ高 中部工業大学 高田 彰

第 III 部門 (水質・衛生・交通・計画・測量) 3階 C3教室

- III-1 (9.45~10.00) 矢作川の水質に関する一考察 豊田高専 大野 俊夫・豊橋工高 ○竹尾 忠孝
- III-2 (10.00~10.15) 地中における重金属イオンの分散、移動について 金沢大学 寺島 泰・○塚本 勝典
- III-3 (10.15~10.30) 水室式沈殿槽について 名工大 酒井清太郎・豊田高専 ○山本 広次・大野 俊夫
- III-4 (10.30~10.45) 阻害物を含む低有機性廃水の生物処理法について 金沢大学 高瀬 信忠・○寺島 泰・長田 稔
- 休 憩 (10.45~10.50)
- III-5 (10.50~11.05) 名古屋市における交通実態調査について その1. 調査方法 名古屋大学 ○竹内 伝史・山際 喜義・名古屋市 杉野 尚夫
- III-6 (11.05~11.20) 名古屋市における交通実態調査について その2. 調査内容 名古屋大学 河上 省吾・○三星 明宏・青島繪次郎
 名工大 丸尾 哲也
- III-7 (11.20~11.35) 街路網パターンに関する一考察 名工大 丸尾 哲也
- III-8 (11.35~11.50) 住宅団地内の街路利用状況とその問題点 (スライド) 名城大学 水野 弘・○高橋 政稔
- III-9 (11.50~12.05) 容量制約のある確率最大化による交通量配分 名工大 松井 寛
- 昼 食 休 憩 (12.05~13.00)
- III-10 (13.00~13.15) OD 交通量予測モデルに関する一考察 名古屋大学 河上 省吾
- III-11 (13.15~13.30) 土地利用計画における居住地環境の計画化について (スライド) 岐阜大学 加藤 晃・○大槻 正和
- III-12 (13.30~13.45) 貨物輸送におけるゾーン内トリップについて 岐阜大学 加藤 晃・○岡 昭二
- III-13 (13.45~14.00) 高速道路と一般街路との交差接続部における走行挙動について 一センターランプの場合一 豊田高専 ○栗本 譲・萩野 弘
 五港建 足立 嗣雄
- III-14 (14.00~14.15) 港湾発生交通量調査について
- 休 憩 (14.15~14.20)
- III-15 (14.20~14.35) 平板測量における前方交会法の誤差について (スライド) 名城大学 中井 清・柳田 祐次・○前田都喜春
- III-16 (14.35~14.50) 複雑地形のトラバース測量における測角の単純誤差について (II) (スライド) 名城大学 加藤 正育・○柳田 祐次

第 IV 部門 (土質工学) 4階 視聴覚教室 D9

- IV-1 (9.30~9.45) 土質分類法基準化作業の現状について 名古屋大学 (土の判別分類法基準化委員会) 植下 協
- IV-2 (9.45~10.00) 豊浦標準砂の平均粒子径について 名城大学 加藤 正育・○坂飯 武男
- IV-3 (10.00~10.15) 気乾の相馬砂のせん断特性について 名古屋大学 市原 松平・松沢 宏・山田 公夫・○並木 茂彦
- IV-4 (10.15~10.30) 廻転粘土計によるグラウトの流動性試験 (スライド) 愛知工大 久保 直志・森野 奎二・○津幡 健一
- IV-5 (10.30~10.45) 不飽和粘土せん断時の体積変化について (スライド) 信州大学 川上 浩・○阿部 広史
- 休 憩 (10.45~10.50)

| | | |
|-----------------------|-------------------------------------|---|
| IV-6 (10.50~11.05) | 砂の極限支持力係数 N_c におよぼす載荷板の幅と底面摩擦角の影響 | 名古屋大学 市原 松平・○森 信夫 |
| IV-7 (11.05~11.20) | 信州ローム(桔梗原地域)の工学的特性に関する二、三の考察 | 名城大学 河内 睦雄・○岡田富士夫 |
| IV-8 (11.20~11.35) | トンネルのゆるみ荷重について | 信州大学 ○岡田 喬・長 尚 |
| IV-9 (11.35~11.50) | 斜面における橋梁基礎の応力状態について(スライド) | 名城大学 ○清水 泰弘・名古屋大学 川本 眺万 |
| IV-10 (11.50~12.05) | 舗装構造の荷重-変位関係の解析 | 名古屋大学 植下 協・波辺 恭久・愛知県 荒川 孝 |
| 昼 食 休 憩 (12.05~13.00) | | |
| IV-11 (13.00~13.15) | 網埋設盛土の性状について(スライド) | 信州大学 川上 浩・○小西 純一 |
| IV-12 (13.15~13.30) | 先端角度の差異における地盤変位(スライド) | 名城大学 柴田 道生・○阿河 武志 |
| IV-13 (13.30~13.45) | 盛りこぼし橋台の主働土圧について | 岐阜高専 狩俣 恒一 |
| IV-14 (13.45~14.00) | 盛りこぼし橋台の地震時主働土圧について | 岐阜高専 ○稲葉雄次郎・狩俣 恒一 |
| IV-15 (14.00~14.15) | 剛性基礎を有せざるくいの先端支持力の一計算 | 名城大学 柴田 道生 |
| 休 憩 (14.15~14.20) | | |
| IV-16 (14.20~14.35) | くい先端部に設定した放射状仕切板による外周閉塞効果について | 名城大学 柴田 道生・○深谷 実 |
| IV-17 (14.35~14.50) | シールド施工に伴う基礎の変位“計算及び模型実験” | 金沢大学 西田 義親・首都高速 中川 誠志・鹿島建設 ○中尾 努・金沢大学 松村 夏樹 |
| IV-18 (14.50~15.05) | シールド工事に伴う地表沈下と地盤振動について(スライド) | 名古屋大学 ○川本 眺万・名古屋市 原 隆男・奥村組 奥園 清 |
| IV-19 (15.05~15.20) | 加賀工事軟弱地盤地区の特殊処理工について | 日本道路公団小松工事事務所 窪田 敏夫・江口 実・○山本 武夫 |
| IV-20 (15.20~15.35) | 梯橋川周辺部の軟弱処理工について | 日本道路公団小松工事事務所 窪田 敏夫・片桐 勝輔・○浜田 定男・森川 薫 |
| 休 憩 (15.35~15.40) | | |
| IV-21 (15.40~15.55) | 小杉工事の軟弱地盤地区の盛り土工法について | 日本道路公団富山工事事務所 川越 暢・関口 昌利・村井 敷・○鈴木 正勝 |
| IV-22 (15.55~16.10) | くい打ち込み時の地盤の振動周期(スライド) | 名城大学 堀内 孝英・江坂俊明 東海カッター興業 ○玉置 英裕 |
| IV-23 (16.10~16.25) | 地中構造物の常時微動の観測について(スライド) | 中部電力 水野 教宏・増田 清巳・岩田 宣巳・奥田 宏明・○加藤 文夫 |

関西支部行事案内 (郵便番号 541 大阪市東区船場中央2丁目2番地船場センタービル4号館) 電話 06-271-6686 番 振替口座大阪 82599 番

(1) 中堅土木技術者を対象とする懇話会(第1回) ▶ 11月24日(水) ◀

都市計画に関する懇話会

(第2回) 生活環境と都市計画の問題について

1. 日 時: 1971年11月24日(水) 13.00~16.00

2. 会 場: 大阪科学技術センター4階405号 電話大阪(06)443-5321番

大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄四つ橋線本町下車北へ150m靱公園北東角)

3. 問題点提起者および司会:

| | | |
|--------|----------------------|------------|
| 開会挨拶 | 土木学会関西支部長 | 田 中 茂 |
| 問題点提起者 | 京都大学教授工学部衛生工学教室 | 工博 末 石 富太郎 |
| " | 京都大学助教授工学部建築学教室 | 工博 三 村 浩 史 |
| " | 大阪市総合計画局都市計画部計画調査課主査 | 大 塚 幸太郎 |
| " | 大阪市環境保健局環境部企画調査課主査 | 渡 辺 茂 了 |
| 司 会 | 京都大学教授工学部衛生工学教室 | 工博 末 石 富太郎 |
| " | 大阪市総合計画局企画部主査 | 小 林 幸 藏 |
| 閉会挨拶 | 土木学会関西支部幹事長 | 後 藤 尚 男 |

4. 定 員: 60名

5. 参 加 費: 無料 参加歓迎

6. 懇親パーティ: 懇話会終了後、懇親パーティを開催します。

(6階603号, 開会16時よりの予定)

参加費: 無料, 定員: 30名

7. 申 込 方 法: 懇話会のみ参加希望者は参加予定人員をはがきまたは電話にて、懇親パーティ参加希望者は勤務先、連絡先および氏名を明記(様式随意)し、11月10日(水)までに土木学会関西支部へ

お申し込み下さい (パーティ参加証をお送りします)。

(2) 講習会「工程管理の基礎」

▶ 11月16日(火) ◀

主 催：土木学会関西支部

後 援：大阪建設業協会・建設コンサルタンツ協会大阪支部・建設技術資料センター

本年度より当関西支部では、はじめての試みとして学術研究より遠ざかっておられる現場、土木業務にたずさわる土木技術者を対象に、斬新な研究や実務に役立つ解析手法等をテーマに、基礎的かつ入門的に解説を加えて勉強して頂く講習会を行なうことになりました。

今年は近代の高度な技術革新に伴ってますます複雑化する建設工事の工程管理が、どうあるべきかというのをテーマに選びました。関係各位の積極的なご参加を期待しております。

1. 日 時：1971年11月16日(火) 9.20~16.20

2. 会 場：大阪科学技術センター 4階401号室 電話大阪(06)443-5321 番
大阪市西区靱1丁目118(地下鉄四ツ橋線本町下車北へ150m 靱公園北東角)

3. 題目と講師：

| | | | |
|-------------|--------------------------|------------------|-------|
| 9.20~9.30 | 開 会 挨拶 | 土木学会関西支部長 | 田中 茂 |
| 9.30~10.45 | ① 建設工事における工程管理の位置づけ | (株)奥村組技術研究所調査部長 | 河原知良弘 |
| 10.45~12.00 | ② 工程の計画と管理 | 近畿地方建設局企画部技術管理課長 | 成田 久夫 |
| 13.15~14.30 | ③ オペレーショングラフと無線装置による工程管理 | (株)大林組幹線六甲工事事務所長 | 黒沢 重男 |
| 14.45~16.15 | ④ ネットワーク手法の演習 | 京都大学工学部土木工学科助手 | 春名 攻 |
| 16.15~16.20 | 閉 会 挨拶 | 土木学会関西支部幹事長 | 後藤 尚男 |

4. 定 員：160名(先着順)

5. 参 加 費：主催・後援学会会員 1000円(資料代を含む)

ただし講習会当日は1500円となりますので期限内に前納して下さい。

非会員 1500円(資料代を含む)

6. 申 込 期 限：1971年10月29日(金)

7. 申 込 方 法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および会員の種別(所属学協会名)を明記(様式随意)し、上記参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。参加証のない人は入場をお断りします。

(注) 都合により講師の順序に変更があるかも知りませんのでご了承下さい。

(3) 講習会「最近の機械化施工の趨勢と問題点」

▶ 12月2日(木) ◀

共 催：土木学会関西支部・土質工学会関西支部・日本建設機械化協会関西支部

近代社会の発展に伴い、今までに例をみない各種大規模工事、特殊工事等の施工の必要が日々増大の傾向にあることは周知の事実であります。

この点にかんがみ学・協会三者が相寄り、これら機械化施工の業務にたずさわる建設技術者ならびに機械技術者を対象とした標記の講習会を下記のとおり開催することになりました。奮ってご参加下さい。

記

1. 日 時：1971年12月2日(木) 9.40~17.00

2. 会 場：大阪科学技術センター 8階大ホール 電話大阪(06)443-5321 番
大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄四ツ橋線本町下車北へ150m 靱公園北東角)

3. 題目と講師：

| | | | |
|-------------|---------------|----------------------|----------|
| 9.40~10.00 | 開 会 挨拶 | 土木学会関西支部長 | 田中 茂 |
| | | 土質工学会関西支部長 | 伊藤 富雄 |
| | | 日本建設機械化協会関西支部長 | 柴田辰之進 |
| 10.00~10.50 | ① 建設機械の今後の動向 | (株)大林組技術研究所工法機械研究室長 | 齋藤 二郎 |
| 11.00~11.50 | ② 大規模土工と機械 | 日本国土開発(株)研究部長 | 工博 伊丹 康夫 |
| 13.00~13.50 | ③ 公害防止基礎工法 | 阪神高速道路公団工務部設計課長 | 田井戸米好 |
| 14.00~14.50 | ④ 海中基礎施工機械 | 本州四国連絡橋公団設計第二部設計第三課長 | 工博 吉田 巖 |
| 15.00~15.50 | ⑤ トンネル施工機械 | 建設機械化研究所長 | 三谷 健 |
| 16.00~16.50 | ⑥ 施工時の測量方式と機器 | 京都大学助教授工学部 | 工博 森 忠次 |
| 16.50~17.00 | 閉 会 挨拶 | | |

4. 定員：300名（申込先着順）
5. 参加費：共催学・協会会員 2000円（テキスト代を含む）
ただし講習会当日は3000円となりますので、期限内に前納して下さい。
非会員 3000円（テキスト代を含む）
6. 申込期限：1971年11月15日（月）
7. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および会員の種別（所属学・協会名）を明記（様式随意）し、上記参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。
参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。
納入された参加費の払いもどしはいたしませんのでご了承下さい。
(注) 都合により講師の順序に変更があるかも知れませんのでご了承下さい。

(4) 第2回学生見学会（南郷洗堰、湖西線工事見学会）▶ 11月27日（金）◀

▶参加者資格：土木学会学生会員

ただし申込期限までに入会手続のすんだものおよび大学院学生の正会員も有効

▶参加費：300円

- ▶申込要領：参加希望者は学校名、氏名および集合場所（A班、B班の別）を明記し、参加費300円を添えて各学校の学生班長を経由のうえ申込期限までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。
申込期限内に定員を超過したときは、学校別に人員の割当てをいたしますからお済みおき下さい。
学生班長は申込先順位番号を付けて一括申し込んで下さい。

1. 期 日：1971年11月27日（土）
2. 見学先：近畿地建琵琶湖工事事務所南郷洗堰
日本鉄道建設公団大阪支社湖西線今津鉄道建設所
3. 集 合：（A班）11月27日 12時30分までに京都大学土木工学教室前
（B班） ” 12時45分までに立命館大学土木工学工学教室前
4. 行 程：12.45 京都大学発—13.00 立命館大学経由—14.00 南郷洗堰着、見学 15.00 発—琵琶湖大橋（説明）—16.00 今津鉄道建設所着、見学 17.00 発—18.30 京都駅着解散
5. 定 員：100名
6. 申込期限：1971年11月12日（金）

(5) 学生映画会

1. 上映映画：

明日への港（16ミリ カラー S 30分）・神戸大橋（16ミリ カラー S 24分）・深層に挑む—防潮水門の基礎（16ミリ カラー S 24分）・世界の人々と共に（16ミリ カラー S 30分）・硬岩とマシン（16ミリ カラー S 30分）

2. 日時および場所：

| | | |
|----------------------|-------------------|---------|
| 1971年11月24日（水）13時15分 | 明石工業高専視聴覚教室 | 定員 100名 |
| ” 25日（木）14時 | 神戸市立工業高専視聴覚教室 | ” 100名 |
| ” 26日（金）15時 | 神戸大学土木工学教室 306教室 | ” 110名 |
| ” 27日（土）13時 | 関西大学第4学舎内 | ” 200名 |
| ” 29日（月）15時 | 大阪工業大学第2講堂 | ” 300名 |
| ” 30日（火）15時 | 大阪市立大学工学部階段教室 | ” 300名 |
| 12月1日（水）14時 | 近畿大学 19号館2号教室 | ” 200名 |
| ” 2日（木）13時30分 | 大阪産業大学5号館1階会議室 | ” 100名 |
| ” 3日（金）15時 | 大阪工業高専3階合同教室 | ” 300名 |
| ” 4日（土）13時 | 大阪府立工業高専土木工学教室 | ” 200名 |
| ” 6日（月）15時 | 京都大学土木総合館 | ” 100名 |
| ” 7日（火）14時40分 | 立命館大学理工学部6号館67号教室 | ” 150名 |
| ” 8日（水）15時 | 大阪大学土木工学教室 | ” 100名 |

3. 参加費：無料，正会員の方の参加も歓迎します。

(6) 「破壊の力学とその応用」講習会

主催 日本材料科学会関西支部 共催 土木学会関西支部ほか 12 学協会

1. 日 時：1971 年 11 月 29 日 (月), 30 日 (火) の両日 午前 9.30~12.05 午後 13.00~16.55

2. 会 場：日本経済新聞社新館 (日経ホール) 大阪市東区高麗橋 1-1

3. 題目と講師：

(第 1 日)

- | | | |
|-------------------------|------|---------|
| 1. 破壊問題に対する線形弾性力学的取扱 | 阪大工 | 大 路 清 嗣 |
| 2. 耐脆性破壊設計に対する線形破壊力学の応用 | 神戸製鋼 | 池 田 一 夫 |
| 3. 亀裂体の応用解析 | 東大工 | 宮 本 博 |
| 4. 応力拡大係数 (解析法と資料) | 航技研 | 石 田 誠 |
| 5. 疲れ問題の破壊力学的取扱 | 東工大工 | 中 沢 一 |

(第 2 日)

- | | | |
|--|------|---------|
| 6. 破壊問題の統計的取扱 一特に疲労破壊における信頼性について一 | 神戸大工 | 中 川 隆 夫 |
| 7. 延性破壊の力学的問題 | 阪大工 | 小 倉 敬 二 |
| 8. 環境強度問題に対する破壊力学の応用 | 東大生研 | 北 川 英 夫 |
| 9. フラクトグラフィー 一破断面による破壊の解析一 住友金属 (株) 中央技術研究所 | | 寺 崎 富久長 |
| 10. 複合材料の変形と破壊の力学的基礎 | 阪市大工 | 藤 井 太 一 |

4. 定 員：100 名

5. 参加会費：共催学協会 会 員 5 000 円
 会員外 10 000 円 学生会員 3 000 円 } (共にテキスト代を含む)

6. 申込期限：1971 年 11 月 20 日 (土)

7. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および所属学協会名を明記し、上記参加費を添えて現金書留にて下記申込先へお申し込み下さい。受講者には聴講証をお送りしますから、会期中は必ずご持参下さい。納入された参加会費の払いもどしはいたしません。

(注) 都合により講師の順序に変更があるかも知れませんのでご了承下さい。

申 込 先：日本材料科学会関西支部 電話 (06) 441-5531

(郵便番号 550) 大阪市西区靉 1 丁目 大阪科学技術センター内

(付) テキスト頒布について

| | | | | |
|--------------------|----|--------|----|-------|
| 近畿開発と大型土木プロジェクト | 頒価 | 700 円 | 送料 | 90 円 |
| 都市廃棄物の処理と処分 | " | 1000 円 | " | 90 円 |
| 水理学・水文学における最近の進歩 | " | 1800 円 | " | 150 円 |
| プレストレストコンクリート最近の進歩 | " | 1400 円 | " | 120 円 |
| 土木工事における土中水の扱い方 | " | 1800 円 | " | 120 円 |

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

中国四国支部行事案内

(郵便番号 730 広島市基町 10 番 3 号 (自治会館内))
 電話 0822-21-2666

(1) 「石灰による土質安定処理工法」の講習会

▶ 11 月 17 日 (水) ◀

主 催：日本石灰協会土質安定処理委員会

協 賛：土木学会中国四国支部・土質工学会中国支部・日本材料科学会土質安定材料委員会

1. 日 時：1971 年 11 月 17 日 (水) 9.30~17.00

2. 場 所：広島平和記念館講堂 (広島市中島町 1 の 1 電 0822-41-5246)

3. 内容と講師：

| | | |
|-------------|----------------|----------------------|
| 9.30~9.35 | 委員長あいさつ | 谷 藤 正 三 |
| 9.35~10.40 | 石灰安定処理の基礎事項 | 京都大学教授 松 尾 新一郎 |
| 10.50~12.00 | 石灰安定処理のための調査試験 | 広島大学教授 網 千 寿 夫 |
| 13.00~14.10 | 石灰安定処理の計画と設計 | 中央大学教授 久 野 悟 郎 |
| 14.20~15.30 | 石灰安定処理の施工計画 | 日本道路公団広島建設局長 大 杉 正 長 |

15.40~16.55 石灰安定処理の施工と品質管理 日本道路協会 近藤茂夫
 16.55~17.00 支部長あいさつ 土木学会中国四国支部長・土質工学支部長 巖真温

4. テキスト：「石灰による土質安定処理工法」A5版 213ページ
5. 聴講料：2000円（テキスト代を含む）
6. 定員：300名
7. 申込方法：参加希望者は、勤務先、連絡先、氏名を明記の上、聴講料を添えて1971年11月10日（水）までに下記へお申込み下さい。
8. 申込先：日本石灰協会支部 郵便番号 530 大阪市北区梅田町8 西阪神ビル 317号
 電 大阪（06）341-7081 振替口座 大阪 60712
 あるいは上記各支部

（2）コンクリート講習会 ▶ 10月29日（金）◀

近年土木構造物の基本としてのコンクリート技術は進歩し、多様化、分業化が進み、いろいろ問題が提起されている。ここで、技術者のコンクリートに対する認識を新たにし、コンクリートの製造施工面での信頼性を高める意味からも、またコンクリートの技師や、主任技師として十分活躍できる知識を与えるために下記により講習会を開催しますのでご希望の方はふるってご参加下さい。

1. 日時：1971年10月29日（金）9.00~16.00
2. 場所：山口県農協会館講堂・電（08397）2-2211
 山口県小郡町下郷 2139 国鉄小郡駅より徒歩 15分
3. 講習内容：

| | | | |
|-------------|-----------------------------|-----------------|--------------|
| 9.00~10.30 | ① コンクリート用材料の品質試験及び管理 | ④ 構造用セメントについて | 小野田セメント 成松知巳 |
| 10.30~12.00 | 同 | ⑤ コンクリート用骨材について | 宇都興産 南条毅一 |
| 13.00~14.00 | ② コンクリートの配合設計・製造及び品質管理 | | 山口大学 加賀美 一二三 |
| 14.00~16.00 | ③ コンクリートの施工・蓄性質及び関係法規（JIS等） | | 広島大学 船越 稔 |
4. 参加費：1000円（テキスト代を含む）
5. 申込方法：住所・氏名・勤務先を明記のうえ、参加費を添えて上記支部事務局までお申込み下さい。

第16回 FRP 総合講演会 ▶ 11月8日（月）~10日（水）◀

1. 主催：（社）強化プラスチック技術協会
2. 協賛：土木学会，外 17 団体
3. 日時：1971年11月8日（月）~10日（水）9.00~16.30
4. 会場：大阪商工会議所内「国際会議ホール」（大阪市東区内本町橋詰町 58-7・電 942-6151）
5. その他：詳細は直接強化プラスチック技術協会（東京都中央区銀座 3-14-2 はなぶさビル 電 543-1531）へお問合せ下さい。

日本工学会第31回見学会 ▶ 11月16日（火）◀

日本工学会主催で下記により見学会を催します。この見学会は傘下各学協会所属会員の方々に気楽に見学していただくことを目標としています。奮ってご参加下さい。

記

1. 日時：1971年11月16日（火）9.00 バス東京駅発，19.30 東京帰着
2. 見学先：鹿島工業地帯見学—住友金属工業鹿島製鉄所を中心に日本化成ゴム，三菱油化工業ならびに港湾施設等を 13.00~15.30 まで見学します。住金製鉄所以外は、バスに乗ったまま見学の予定です。昼食は潮来辺になる予定です。
3. 参加費：バス代，中食代計金 1500 円を申込みと同時に現金書留で予納して下さい。
4. 定員：50 名とし，定員内先着順に参加証をお届けします。住友金属の見学は同業者はご遠慮下さい。
5. 集合：当日 8.50 丸ビル明治屋前〔東京駅中央口前〕に集合のこと。
6. 申込期限：（10月31日）はがきに第31回見学会申込と書き，住所，氏名，所属学会，勤務先を記入し日本工学会（東京都港区芝琴平町 35，日本造船学会内，電話 502-2049）あて申込むこと。

学会出版物の書店店頭販売に関して

土木学会出版物は従来、① 学会事務局（一部支部事務局）の店頭販売もしくは直接注文、② 丸善等大書店での店頭販売、③ 最寄書店を通ずる注文、の3つの方法でしか入手できませんでした。

そこで学会出版物のより一層の普及と、入手の迅速化をはかるため、全国の有力書店 98 店と契約して、学会主要刊行物 12 点を店頭で販売することを理事会で決定し、46 年 11 月中旬実施を目標に準備中であります。

書店の店頭販売には会員特価は適用されませんが、郵送料の個人負担を考えれば店頭入手のほうが、むしろ安い場合も生じましょう。店頭がない本は従来と同じように書店を経由の注文となります。学会出版物取扱書店名（正式には常備寄託書店）は 11 月号に発表いたします。

なお学会の店頭販売もしくは直接注文は、もちろん承りますので、ご便利な方法により学会出版物をお求め下さい。

“構造物およびその構成要素の強度と安全性”に関する研究発表会

（第 18 回橋梁・構造工学研究発表会）

標題の研究発表会を下記により開催いたしますので、多数ご参加下さいますようご案内致します。

1. 共 催：日本学術会議構造研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
2. 期 日：1971 年 12 月 3 日（金）9.30～17.00
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂（東京都新宿区四谷 1 丁目）
4. 会 費：聴講無料
5. 講演概要：会場にて実費頒布
6. プログラム：

| | | |
|-------------|---|---|
| 9.30～9.35 | 開会の辞 | 日本学術会議構造研究連絡委員会橋梁・構造工学分科会委員長 仲 威雄 |
| 9.35～9.45 | (1) 衝撃力を受ける Timoshenko はりの弾塑性応答について | 石川高専 ○出村 禧典・金沢大学 小堀 為雄 |
| 9.45～9.55 | (2) 変動荷重を受けるはりの動的弾塑性解析 | 宮崎大学 太田 俊昭 |
| 9.55～10.05 | (3) Cyclic Plasticity を受ける鋼構造物の履歴応答解析への 1 アプローチ | 名古屋大学 多賀 直恒 |
| 10.05～10.15 | (4) 弾塑性建築架橋の構成要素の地震応答 | 京都大学 小堀 謙二・京都防災研 南井良一郎・京都大学 ○藤原 悌三 |
| 10.15～10.25 | (5) 振動台を用いた鉄骨系プレハブ住宅の耐震評価 | 建設省建築研究所 渡辺 丹 |
| 10.25～10.35 | (6) モルタル充填鋼管の引張耐力 | 東京大学 加藤 勉・横浜国立大学 ○青木 博文・東京大学 山内 恭光・井上 景彦 |
| 10.35～11.05 | 討 論 (1)～(6) | |
| 11.05～11.15 | 休 憩 | |
| 11.15～11.25 | (7) 鉄筋コンクリート柱のせん断耐力と変形 | 京都大学 六車 照・富永 恵・○渡辺 史夫 |
| 11.25～11.35 | (8) せん断破壊をとまらぬ鉄筋コンクリート柱の履歴特性に関する実験的研究 | 京都大学 若林 実・大阪工大 ○南 宏一 |
| 11.35～11.45 | (9) 鉄筋コンクリートトラス構造の研究 | 広島大学 嶋津 孝之 |
| 11.45～11.55 | (10) 地震荷重をうける PC はり、柱接合部の変形状に関する研究 | 京都大学 六車 照・○富永 恵・後藤 英逸・佐野喜志夫 |
| 11.55～12.15 | 討 論 (7)～(10) | |
| 12.15～13.15 | 昼 食 | |
| 13.15～13.25 | (11) 地震時における構造物の動的挙動と疲労破壊について | 金沢大学 ○水上 義彦・小堀 為雄・コロンビア大学 篠塚 正直 |
| 13.25～13.35 | (12) 走行荷重による道路橋の疲労寿命推定に関する確率統計的研究 | 京都大学 小西 一郎・○白井 勝之 |
| 13.35～13.45 | (13) T.C ボルトの導入軸力の大きさとバラツキについて | 神戸大学 西村 昭 |
| 13.45～13.55 | (14) 低強度溶接材料による高張力鋼溶接継手の力学的特性 | 阪神高速道路公団 田井戸米好・片山鉄工所 佐伯 礼行・○穂積 重臣・小沢 健作 |
| 13.55～14.05 | (15) 低強度溶接材料による高張力鋼継手の繰返し載荷特性 | 日本鋼管 ○嶋田 正大 東京都立大学 堀川 浩甫 |
| 14.05～14.15 | (16) 鋼管トラス節点の強度に関する実験的研究 | 東京大学 ○奥川 清志・東京都立大学 堀川 浩甫・東京大学 奥村 敏恵 |
| 14.15～14.25 | (17) 鉄道用合成樹脂の疲労耐力に関する実験的研究 | 東京大学 加藤 勉・○秋山 宏・藤 顕仁 |
| 14.25～15.00 | 討 論 (11)～(17) | 国鉄構造物設計事務所 ○阿部 英彦・中野 昭郎・国鉄鉄道技術研究所 西郷勘次郎・江口 保平 |

| | | |
|-------------|---|----------------------------------|
| 15.00~15.10 | 休 憩 | |
| 15.10~15.20 | (18) セン断力を受けるプレートガード設計基準と極限強度に対する安全性について | 大阪大学 小松 定夫・○西村 宣男 |
| 15.20~15.30 | (19) 水平補剛材を有するハイブリッド・プレートガードの曲げ耐力 | 大阪大学 ○前田 幸雄・川井 豊 |
| 15.30~15.40 | (20) アルミ合金桁の横倒れ座屈強度とその安全性に関する研究 | 大阪大学 前田 幸雄・大阪府立工専 ○三宮 和彦 |
| 15.40~15.50 | (21) 曲げと軸方向力を受けるはり一柱の曲げねじれ座屈強度におよぼす残留応力への影響 | 金沢大学 吉田 博・○西田 進 |
| 15.50~16.00 | (22) 鋼柱の座屈強度のばらつきに関する研究 | 名古屋大学 福本 昉士・○青木 徹彦 |
| 16.00~16.10 | (23) 残留応力をもつ理想H形断面柱の座屈耐力に関する研究 | 神戸大学 山田 稔・○辻 文三 |
| 16.10~16.20 | (24) 箱型断面柱の局部座屈強度 | 東京大学 奥村 敏恵・西野 文雄・○長谷川彰夫 |
| 16.20~16.55 | 討 論 (18)~(24) | |
| 16.55~17.00 | 閉会の辞 | 日本学術会議構造研究連絡委員会橋梁・構造工学分科会委員 平井 敦 |

岩の力学講演会—有限要素法の地盤工学への応用と問題点—

1. 主 催：日本学術会議力学研究連絡委員会
2. 共 催：土木学会・土質工学会・日本鋳業会・日本材料学会
3. 開催期日・時間・会場・定員：

| 開 催 期 日 | 時 間 | 会 場 | 定 員 |
|----------------|------------|----------------|------|
| 1971年11月19日(金) | 9.30~17.00 | 日本学術会議講堂(東京) | 200名 |
| 1971年11月26日(金) | 9.30~17.00 | 大阪科学技術センター(大阪) | 100名 |

題目および講師

- ① 有限要素法の基礎理論 建設省土木研究所 飯田 隆一
 - ② 有限要素法の地盤工学への応用総説 名古屋大学工学部 川本 脩万
 - ③ 有限要素法の地下岩盤工学への応用例 京都大学工学部 岡 行俊
 - ④ 有限要素法の岩の破壊現象解析への応用 東京大学工学部 石島 洋二
 - ⑤ 有限要素法の地盤工学への応用例 電力中央研究所技術第二研究所 北原 義浩
5. 参加費：一般 1500円、学生 1000円(予稿集代を含む)
 6. 申込先：日本鋳業会(東京都中央区銀座 8-5-4 電話 03-572-5091(代))

測定法編集小委員会編

建設技術者のための **測定法** A5 422頁 定 価 2000円
上製クロース装 会員特価 1800円(〒170円)

第1章 総説 第2章 測定器械 第3章 測定値の処理法 第4章 気象に関する測定 第5章 地盤に関する測定 第6章 水に関する測定 第7章 構造物に関する測定 第8章 交通運輸に関する測定 第9章 衛生工学に関する測定

●申込先 土木学会刊行物係 〒160 東京都新宿区四谷1丁目・電 351-5138(代) 振替東京16828

土木学会委員会関係出版物案内

- ・第 17 回橋梁・構造工学研究発表会（新材料・新工法を用いた構造物における諸問題に関する研究）講演概要

45.12.5 開催，日本学術会議構造研究連絡委員会橋梁構造工学分科会・土木学会・日本建築学会共催
B 5 判 106 ページ，講演 14 編 定価 1 000 円（〒 70 円）

- ・第 7 回衛生工学研究討論会講演論文集

46.1.30～31 開催，土木学会主催
B 5 判 174 ページ，講演 16 編 定価 1 500 円（〒 100 円）

- ・第 15 回水理講演会講演集

46.2.12～13 開催，土木学会主催
B 5 判 93 ページ，講演 14 編，定価 800 円（〒 80 円）

- ・構造物の耐風性に関する第 1 回シンポジウム（1970）論文集

45.5.8～9 開催，土木学会・日本建築学会・日本気象学会・電気学会・日本鋼構造協会共催
B 5 判 296 ページ，講演 37 編，定価 1 500 円（〒 100 円）

- ・流体輸送に関するシンポジウム前刷

B 5 判 142 ページ，講演 10 編，定価 1 000 円（〒 100 円）

- ・土木技術者の海外活動別刷

B 5 判 54 ページ 口絵写真 4 ページ 定価 100 円（〒 70 円）

- ~~~~~
- ・岩盤力学文献目録（第 3 回）

B 5 判 オフセット印刷，58 ページ，国内および国外の 25 雑誌の文献約 860 種掲載
定価 200 円（〒 50 円）

- ・地震工学文献目録（第 1 回）▶最新刊◀

B 5 判 オフセット印刷，25 ページ，国内および国外の雑誌の文献を集録
定価 250 円（〒とも）

- ・昭和 45 年度水理学研究の現況

B 5 判 オフセット印刷，15 ページ，国内 72 機関で行なっている研究題目および発表資料約 730 題掲載
定価 70 円（〒 30 円）郵券可

従来，土木学会誌に連載しておりました上記文献目録および研究の現況は，今回より学会誌掲載はとりやめ，単独に印刷することになり，このたび刊行されました。

実費頒布致しておりますので，ご希望の方は，代金を添えてお申込み下さい。

◎申込先：〒 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会刊行物頒布係（電 03 (351) 4132）

土質実験指導書

B 5・66 データシート 32 340 円(〒70)

基礎的な 15 項目の実験を取上げ、目標、試験用具、試料、試験方法、計算および結果の整理、注意事項、関連知識などに分け詳述。

土木材料実験指導書

B 5・134 データシート 53 490 円(〒100)

セメント、骨材、コンクリート、鉄筋、アスファルトの 5 章に分け、それぞれの試験方法を解説。

水理実験指導書

B 5・38 データシート 21 250 円(〒70)

基本的な水理実験を 13 項目とりあげ、目標、使用器具、実験要領、注意、計算および結果の整理、関連知識、設問などに分け詳述。

構造実験指導書

B 5・112 データシート 36 450 円(〒90)

抵抗線ひずみ計、はり、トラス、短柱、RC 部材、PC はり、ラーメン、非破壊試験、光弾性実験の 9 項目にわたり編集した実用書。

測量実習指導書

新書版・232 折込付図 13 450 円(〒80)

一般注意、距離、角、トラバース、平板、水準、面積・体積、三角、地形、路線、写真、工事の 12 章に分けたハンディな実用書。

土木製図基準 1970 年版

A 4・152 頁 折込付図 20 1400 円(〒200)

コンクリート標準示方書

B 6・438 頁 1000 円(〒150)

コンクリート標準示方書解説

A 5・354 頁 1300 円(〒150)

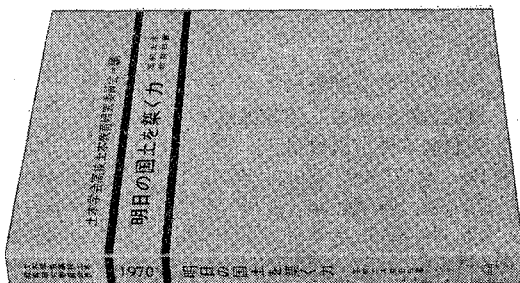
土木技術 フィルム リスト 1970 年版

B 5・126 頁 1000 円(〒90)

土木学会高校土木教育研究委員会編

明日の国土を築く力

高校土木教育白書



目次

論 説

問題提起 / 最上武雄 若い土木技術者に期待する / 山本三郎 工業高校卒業生に望むこと / 丹羽健蔵

1. 国土を豊かにする / 八十島義之助
2. 高校卒土木技術者の活躍 / 委員会編
 - 2.1 アンケート調査の概要 2.2 調査の方法 2.3 卒業後の進路 2.4 高校卒土木技術者の活躍 2.5 仕事と生活 2.6 卒業生からの高校土木教育に対する要望
3. 高校における土木教育 / 委員会編
 - 3.1 学校調査の概要 3.2 土木科設置校の変せん
 - 3.3 教育課程 3.4 施設・設備と経費 3.5 職員
 - 3.6 就職・進学 3.7 在学生の状況 3.8 定時制教育 3.9 私学教育
4. 職場における卒業生の活躍 / 委員会編
 - 4.1 官公庁における高校卒土木技術者の活躍 4.2 企業における高校卒土木技術者の活躍
5. これからの高校土木教育 / 委員会編
 - 5.1 工業教育の目的 5.2 教育課程 5.3 教育の現代化 5.4 進路指導
6. 高校土木教育の歩み / 吉田三郎
7. これからの土木技術者の発展と建設業 / 生出久也
〔付録 1〕 私の歩んできた道 / 斉木多一・松尾梅雄・稲垣力松・中畝武雄・和賀王一・高橋律郎・台石馬三郎・加藤実・池田和幸・川島盛男・村上光由・野沢孝二郎
〔付録 2〕 座談会・これからの高校土木教育に何を期待するか / 磯野隆吉・千本弥三郎・高島信夫・和田幸信・三宅政光(司会)ほか委員会幹事
〔付録 3〕 統計 / 学校基本調査報告書・産業教育・統計と教育・労働白書などより転載



〒160・東京都新宿区四谷1丁目 社団法人土木学会

電話(03)351-5138 振替東京16828



発売中 鋼鉄道橋設計標準解説

土木学会編 / A5・380ページ・上製 2000円 (〒110円)

内 容 一 覧

| | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 1. 国鉄の規程体系 | | | |
| 2. 建造物設計基準規程 | | | |
| 3. 建造物設計標準 (鋼鉄道橋) 解説および付属資料 | | | |
| 第1章 総 則 | | | |
| 1.1 適用範囲 | | | |
| 1.2 建築限界等 | | | |
| 第2章 荷 重 | | | |
| 2.1 荷重の種類 | | | |
| 2.2 死 荷 重 | | | |
| 2.3 列 車 荷 重 | | | |
| 2.4 衝 撃 | | | |
| 2.5 遠 心 荷 重 | | | |
| 2.6 車 両 横 荷 重 | | | |
| 2.7 制動荷重および始動荷重 | | | |
| 2.8 風 荷 重 | | | |
| 2.9 設 計 震 度 | | | |
| 2.10 温 度 変 化 | | | |
| 2.11 ロングレール縦荷重 | | | |
| 2.12 衝 突 荷 重 | | | |
| 2.13 橋側歩道の荷重 | | | |
| 2.14 架設荷重, 橋梁への添加物, 支点変位の影響, 雪荷重等 | | | |
| 第3章 材 料 | | | |
| 3.1 材 料 一 般 | | | |
| 3.2 構 造 用 鋼 材 | | | |
| 3.3 接 合 用 材 料 | | | |
| 3.4 支 承 用 材 料 | | | |
| 第4章 許 容 応 力 度 | | | |
| 4.1 許 容 応 力 度 | | | |
| 4.2 構 造 用 鋼 材 および溶着部の許 容 応 力 度 | | | |
| 4.3 リベット, ボルトおよびピン | | | |
| 4.4 支 承 | | | |
| 第5章 設 計 一 般 | | | |
| 5.1 鋼材の弾性定数 | | | |
| 5.2 橋 桁 の 幅 | | | |
| 5.3 橋 桁 の た わ み | | | |
| 5.4 橋桁の転倒に対する検算 | | | |
| 5.5 桁の上揚力に対する検算 | | | |
| 5.6 部 材 の 細 長 比 | | | |
| 5.7 二 次 応 力 | | | |
| 5.8 部材断面の構成 | | | |
| 5.9 鋼 材 の 厚 さ | | | |
| 5.10 最 小 山 形 鋼 | | | |
| 5.11 そ り | | | |
| 第6章 有 効 断 面 積 | | | |
| 6.1 リベット孔およびボルト孔 | | | |
| 6.2 純断面積の計算 | | | |
| 6.3 引張山形鋼の有効断面積 | | | |
| 6.4 圧縮部材の有効断面積 | | | |
| 6.5 たわみ, 不静定力等を計算す | | | |
| | る場合の有効断面積 | 11.4 最大中心間隔 | |
| 第7章 | 部材および連結の計算 | 11.5 最小縁端距離 | |
| 7.1 | 部材の曲げ応力度 | 11.6 最大縁端距離 | |
| 7.2 | 軸方向および曲げモーメントをうける部材の検算 | 11.7 山形鋼に用いるリベットまたは高力ボルト | |
| 7.3 | 部材のせん断応力度 | 11.8 締付長の大きいリベット | |
| 7.4 | 曲げモーメントとせん断力との合成応力 | 11.9 間接添接の場合のリベット数 | |
| 7.5 | リベット, ボルトおよびピンの応力計算 | 11.10 フィラーがある場合のリベット | |
| 7.6 | 引張力, 圧縮力またはせん断力を用いる溶接継手 | 11.11 リベットまたはボルトの最小数 | |
| 7.7 | T形継手のすみ肉溶接が曲げモーメントとせん断力とを用いる場合の検算 | 11.12 引張をうけるリベットおよびボルト | |
| 7.8 | 部 材 の 連 結 | 11.13 ピ ン 連 結 | |
| 7.9 | プレートガーダーの腹板の添接 | 11.14 ピ ン | |
| 第8章 | 板要素の幅厚比と補剛材 | 11.15 ピン孔を有する部材 | |
| 8.1 | 部材の軸方向に圧縮力を受ける板要素 | 第12章 | 綾構およびダイヤフラム |
| 8.2 | 部材の軸方向の圧縮力と曲げモーメントとを受ける板要素 | 12.1 | 綾 構 部 材 |
| 8.3 | 曲げモーメントを受ける部材の腹板 | 12.2 | 横 構 |
| 8.4 | せん断力と曲げモーメントを受ける部材の腹板 | 12.3 | プレーキトラス |
| 第9章 | 床 組 | 12.4 | 中 間 対 傾 材 |
| 9.1 | 縦 桁 | 12.5 | 端 対 傾 材 |
| 9.2 | 連続縦桁の曲げモーメント | 12.6 | ポ ー タ ル |
| 9.3 | 横 桁 | 第13章 | プレートガーダー |
| 9.4 | 縦桁と横桁との連結 | 13.1 | フランジ断面 |
| 9.5 | 横桁と主桁との連結 | 13.2 | フランジプレート端の前面すみ肉溶接 |
| 9.6 | 鋼床板の構造 | 13.3 | フランジプレートと腹板とを連結する溶接 |
| 9.7 | 鋼床板の縦り設計 | 13.4 | 端 補 剛 材 |
| 9.8 | 鋼床板の横桁の設計 | 13.5 | 下路プレートガーダーの主桁上フランジの固定 |
| 第10章 | 溶 接 継 手 | 13.6 | 鋼床板としての応力と上フランジとしての応力との合成 |
| 10.1 | 溶 接 の 種 類 | 第14章 | ト ラ ス |
| 10.2 | 溶接継手ののど厚 | 14.1 | 弦材等の構成 |
| 10.3 | 溶接の有効長 | 14.2 | 孔あきプレートを有する部材 |
| 10.4 | グループ溶接を用いた突合せ継手 | 14.3 | 主構のガセットの厚さ |
| 10.5 | グループ溶接の開先形状 | 14.4 | ポ ニ ー ト ラ ス |
| 10.6 | すみ肉溶接のサイズ | 第15章 | 支 承 |
| 10.7 | すみ肉溶接の最小長さ | 15.1 | 支 承 一 般 |
| 10.8 | 重 ね 継 手 | 15.2 | 可動支承の種類 |
| 10.9 | T継手に用いるすみ肉溶接 | 15.3 | 可動支承の可動量 |
| 10.10 | 溶接とリベットまたは普通ボルトとの併用 | 15.4 | 可動支承の摩擦係数 |
| 第11章 | リベット継手, ボルト継手およびピン連結 | 15.5 | 支承部分の寸法 |
| 11.1 | リベットの形状および寸法 | 15.6 | アンカーボルト |
| 11.2 | ボルトの形状および寸法 | 15.7 | 支承の防じん装置 |
| 11.3 | 最小中心間隔 | 第16章 | 付 属 設 備 |
| | | 16.1 | 橋 側 歩 道 |
| | | 16.2 | 張 板 |
| | | 16.3 | 排 水 |

付 属 資 料 1~21

4. 鋼鉄道橋関連規程, 規格目録

●申込先: 〒160・東京都新宿区四谷1丁目 土木学会刊行物係 振替東京 16828 Tel.(351)4133